

## 国立大学法人豊橋技術科学大学次期学長候補者の決定について

2019年9月26日  
国立大学法人豊橋技術科学大学  
学長選考会議



国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考会議は、大西隆現学長の任期が2020（令和2）年3月31日付けで満了することに伴い、次期学長候補者を決定したので、国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考等規程第20条の規定により、下記のとおり公表する。

### 記

#### 1. 次期学長候補者

氏名 寺嶋 一彦（てらしま かずひこ）  
現職 国立大学法人豊橋技術科学大学 理事・副学長

2. 任期 2020（令和2）年4月1日～2024（令和6）年3月31日

#### 3. 選考理由

寺嶋一彦氏は、本学の置かれている現状・課題等を的確に分析して、本学の教育・研究・社会貢献・国際連携・管理運営に関し更なる発展に向け、熱意を持って取り組むことを表明している。加えて、本法人の学長選考基準に掲げる4つの資質・能力を十分に備えていることを確認した。以上のことを踏まえ検討した結果、本法人の学長選考会議は、寺嶋一彦氏を次期学長候補者として決定した。

大学を取り巻く環境が非常に厳しい状況の中、同氏には、優れたマネジメント能力と力強いリーダーシップを発揮し、第3期中期目標・計画の達成と、文部科学省国立大学改革方針を踏まえた第4期中期目標・計画の策定及びその遂行に尽力いただき、社会のニーズに応えられる魅力ある大学として本学を発展させていくことを期待する。

#### 4. 選考の過程

別紙「国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考の過程」のとおり

#### 5. 次期学長候補者の主な略歴

別紙「次期学長候補者の略歴書」のとおり

#### 6. 学長選考基準

別紙「国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考基準」のとおり

以上

## 国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考の過程

日 程	事 項
2019（令和元）年7月18日（木）	意見聴取の公示
2019（令和元）年7月18日（木） ～2019（令和元）年7月24日（水） ※土日祝日を除く	意見聴取の期日前提出
2019（令和元）年7月25日（木）	意見聴取の実施
2019（令和元）年7月25日（木）	<b>【学長選考会議】</b> 学長候補適任者の候補者を選出
2019（令和元）年7月26日（金） ～2019（令和元）年8月19日（月）	学長候補適任者の候補者への学長候補者となる意思の確認
2019（令和元）年8月27日（火）	<b>【学長選考会議】</b> 学長候補適任者の候補者との面談を実施し、学長候補適任者を選出
2019（令和元）年9月18日（水）	意向調査の公示
2019（令和元）年9月18日（水） ～2019（令和元）年9月25日（水） ※土日祝日を除く	意向調査の期日前投票
2019（令和元）年9月20日（金）	所信表明の実施
2019（令和元）年9月26日（木）	意向調査の実施 （開票結果） ・意向調査対象者 257 名 ・投票総数 217 票 ・有効投票数 211 票 ・無効投票数 6 票 ・得票数 井上 光輝 101 票 寺嶋 一彦 110 票
2019（令和元）年9月26日（木）	<b>【学長選考会議】</b> 次期学長候補者の決定
2019（令和元）年9月26日（木）	次期学長候補者の決定について公表

次期学長候補者の略歴書			
ふりがな 氏 名	てらしま かずひこ 寺嶋 一彦	性 別	男
生年月日 年 齢	昭和27年 6月24日生 満67歳		
最終学歴	昭和56年 3月京都大学大学院工学研究科博士後期課程 精密工学専攻単位取得退学		
学 位	昭和57年 5月 工学博士（京都大学）		
現 職 名	理事・副学長（豊橋技術科学大学）		
主要経歴	<p>昭和51年3月 京都工芸繊維大学工芸学部 機械工学科卒業</p> <p>昭和53年3月 京都工芸繊維大学大学院 工学研究科機械工学専攻終了</p> <p>昭和56年3月 京都大学大学院 工学研究科博士後期課程精密工学専攻単位取得退学</p> <p>昭和56年4月 京都大学 研究生</p> <p>昭和57年5月 京都大学 工学博士</p> <p>昭和57年6月 豊橋技術科学大学工学部 生産システム工学系 助手</p> <p>昭和63年4月 豊橋技術科学大学工学部 生産システム工学系 講師</p> <p>平成 2年4月 豊橋技術科学大学工学部 生産システム工学系 助教授</p> <p>平成 3年9月～4年9月 ミュンヘン工科大学 電気・情報工学ロボット制御研究室 (G. Schmidt 教授) 客員研究員</p> <p>平成 6年4月 豊橋技術科学大学工学部 生産システム工学系 教授</p> <p>平成22年4月 同大学機械工学系教授に配置換</p> <p>平成24年4月 ～ 福島県立医科大学 医工連携寄付講座 特任教授 兼任</p> <p>平成25年11月～ 中国瀋陽工業大学 客座教授 兼任</p> <p>平成30年3月 豊橋技術科学大学 定年退官</p> <p>平成30年4月～ 同大学 理事・副学長（研究・学務担当）、名誉教授 現在に至る。</p>		
管理運営 に関する 実績	<p>平成16年 4月～18年3月 豊橋技術科学大学学長補佐（目標評価担当） 豊橋技術科学大学目標評価室長（兼務）</p> <p>平成18年 4月～22年3月 豊橋技術科学大学学長補佐（研究戦略担当） 豊橋技術科学大学研究戦略室長（兼務）</p> <p>平成22年 4月～24年3月 豊橋技術科学大学機械工学系長（兼務）</p> <p>平成22年 4月～28年3月 豊橋技術科学大学人間・ロボット共生リサーチセンター・センター長（兼務）</p> <p>平成22年 4月～30年3月 豊橋技術科学大学教育研究評議会評議員（兼務）</p> <p>平成22年 4月～24年3月 豊橋技術科学大学学長選考会議委員（兼務）</p> <p>平成24年 4月～26年3月 豊橋技術科学大学技術創成研究機構長（兼務）</p> <p>平成24年 4月～26年3月 豊橋技術科学大学副学長（社会連携担当）（兼務） 豊橋技術科学大学社会連携推進本部長（兼務）</p> <p>平成26年 4月～30年3月 豊橋技術科学大学健康支援センター長（兼務）</p> <p>平成26年 4月～28年3月 豊橋技術科学大学副学長（中期計画・評価担当、 施設・安全衛生担当）（兼務）、豊橋技術科学大学 施設マネジメント戦略本部副本部長（兼務）</p> <p>平成26年 4月～28年3月 豊橋技術科学大学安全衛生管理推進本部長（兼務）</p> <p>平成26年 4月～30年3月 豊橋技術科学大学経営協議会委員（兼務）</p>		

	<p>平成28年 4月～30年3月 豊橋技術科学大学副学長（研究担当，健康・衛生担当）（兼務）</p> <p>平成28年 4月～30年3月 豊橋技術科学大学技術科学イノベーション研究機構長（兼務）</p> <p>平成30年3月 定年退職</p> <p>平成30年4月～ 豊橋技術科学大学理事・副学長（研究・学務担当）</p> <p>平成30年4月～ 豊橋技術科学大学技術科学イノベーション研究機構長</p> <p>平成30年4月～ スーパーグローバル大学創成事業推進本部長</p> <p>平成30年4月～ 博士課程教育リーディングプログラム実施本部長</p> <p>平成30年4月～ 豊橋技術科学大学経営協議会委員</p> <p>平成30年4月～ 豊橋技術科学大学学長選考会議委員</p>
<p>教育研究に関する実績</p>	<p>◎教育実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成13年10月：生産システム工学系という概念が当時学生や教員に認識がされにくく、教科書を作ることにより、そのコンセプトを明確にするため、系の教員数名と教科書“生産システム工学”（朝倉書店）を執筆した。中核的役割を果たした。</li> <li>平成18年4月：本学生産システム工学系大学院修士課程にMOT人材育成コース、博士課程全課程にMOT高度人材実習を立ち上げた。中核的役割を果たした。</li> <li>平成20年4月～22年3月：機械系における再編主査を務めた。当時、機械系は、機械システムと生産システムと2学科あったものを、再編主査として“機械工学”に統合した。教育方針としては“機械工学を、より広く、より深く、そしてテラーメイドに学ぶ”をキャッチフレーズとした。入試、就職と人気向上した。</li> <li>平成26年4月：ドイツStuttgart大学機械工学系と、本学機械工学系の修士課程でダブルディグリープログラム（DDP）を締結した。その中核的役割を務めた。</li> <li>著書：①制御の事典（共著），朝倉書店(2015)、②制御工学－技術者のための理論・設計から実装まで（共著），実教出版(2012)、③今後の高齢化社会に求められる生活支援（医療・福祉・介護・リハビリ）ロボット技術（監修）、情報機構(2015)、④生産システム工学－知的生産の基礎と実際（共著），朝倉書店(2001)、⑤システム制御工学－基礎編（監修），朝倉書店，(2003)、⑥Rehabilitation Robotics (Editor)、Journal of Robotics2013, Hindawi Publishing Cooperation, (2014)、⑦Robot-Assisted Gait Training for Older Adults (Co-author), Springer, Jan. (2019) 等11編</li> </ul> <p>◎研究業績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学術論文： 500編（学術論文 170編，査読付き国際会議論文 280編，解説論文等50編； 内Scopus掲載論文 265編）</li> <li>特許： 50件（国内登録 30件，国際登録 20件）</li> <li>著書： 11編 ・学術招待講演： 100件以上</li> <li>留学： 1年 ドイツミュンヘン工科大電気情報工学科（Günther Schmidt教授） ・国際会議論文発表海外出張： 88回</li> <li>学会受賞歴： 32件（平成23年度以降の主なもの）；平成23年 ファナックFAロボット財団論文賞，平成23年 国際自動制御連盟（IFAC）国際会議応用論文賞，平成26年 日本鑄造工学会優秀論文賞，平成27年 計測自動制御学会（SICE）著述賞，平成27年 SICE中部支部研究賞，同学会技術賞，同学会産学連携賞，平成27年 日本機械学会フェロー（JSME Fellow），平成28年 日本工学会教育賞</li> <li>外部資金獲得：科研費18件（代表者）； 経済産業省地域コンソーシアム「革新的鑄物創生のための砂型プレスキャストのプロセス開発」（代表），平成16，17年度（1億2千万円）； 経済産業局戦略的基盤技術高度化支援事業「鑄物製造における劣悪作業の作業効率を向上させる革新的パワーアシスト装置の開発」（代表）平成18～20年度（1億円）；最近10年間は年</li> </ul>

	<p>平均5件程度の産学連携共同研究、第2期愛知県知の拠点介護ロボット、共同研究講座開設で中核的役割を果たす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所属学会： 計測自動制御学会，日本ロボット学会，日本機械学会，日本鋳造工学会，システム制御情報学会，日本看護理工学会、IEEE</li> <li>・特記事項：上記の教育研究成果について、長年に渡り、学内外からの展示会参加、公開依頼、また各種報道などあり、本学のプレゼンス向上に貢献してきた。</li> </ul>
<p>社会貢献に関する実績</p>	<p>◎<u>学会役員、国内外学会実行委員長など</u></p> <p>①計測自動制御学会 評議員（平成20年度～），理事（平成18～21年度），中部支部・支部長（平成22年度），中部支部・副支部長（平成21年度），第54回自動制御連合講演会 実行委員長（平成23年11月 豊橋技科大）</p> <p>②日本鋳造工学会 本部理事（平成16年度～30年度），国際交流委員長（平成18～25年度） 日本鋳造工学会東海支部長（平成26～30年度），第72回世界鋳造国際会議（WFC） 実行委員長（平成28年5月 名古屋），日本鋳造工学会副会長（平成28～30年度）</p> <p>③日本ロボット学会 平成17年度 愛知万博ロボフェスタ小学生大会実行委員長，平成21年度 SYROCO '09 ロボット国際会議 副委員長</p> <p>④日本機械学会 評議委員（平成19年度），機械学会フェロー（平成26年度～）</p> <p>⑤IFAC（国際自動制御学会） IFAC (International Federation of Automatic Control) TC number:Enterprise Integration and Networking : Committee Member</p> <p>⑥学会論文査読関係（年間40～50編） IEEE, IFAC, 機械学会, 計測自動制御学会, ロボット学会、鋳造工学会などから</p> <p>◎<u>兼務：</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本学術研究センター 専門研究員（平成22～24年度）</li> <li>・独立行政法人大学改革支援・学位授与機構：高等専門学校期間別認証評価委員会委員(平成30年4月～)</li> <li>・大澤財団理事（平成24年4月～30年3月）</li> <li>・立松財団理事（平成27年4月～29年3月）</li> <li>・公益財団法人名古屋産業科学研究所：中部TLO企画運営委員会委員（平成30年3月～）</li> <li>・新東工業株式会社：非常勤技術顧問(平成30年3月～)</li> <li>・公益財団法人日比科学技術振興財団：評議員(平成30年4月～)</li> <li>・公益財団法人永井科学技術財団：評議員(平成22年4月～)</li> <li>・一般社団法人医療・環境・再生研究機構：理事(平成28年4月～)</li> <li>・公益財団法人名古屋産業科学研究所：理事(平成30年4月～)</li> <li>・公益財団法人中部科学技術センター：顕彰選考委員会委員(平成22年4月～)</li> <li>・東海工学教育協会：理事(平成30年4月～)</li> <li>・公益財団法人 中部圏社会経済研究所：産学官連携高等教育研究会委員（平成30年4月～）</li> <li>・愛知県：「2019愛知環境賞」選考委員会及び選考部会委員（平成30年4月～）</li> <li>・北陸先端科学技術大学院大学：アカデミックアドバイザー(平成28年4月～)</li> <li>・公益財団法人名古屋産業科学研究所：企画運営委員会委員(平成28年4月～)</li> <li>・株式会社リベルタスコンサルティング：経済産業省評価委員(平成24年4月～)</li> </ul>

## 国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考基準

### 【資質・能力】

国立大学法人豊橋技術科学大学(以下「本法人」という。))における大学憲章を尊重し、その達成・実現に対する強い意欲とともに、以下の資質・能力を有すること。

1. 人格が高潔で、学識が優れ、かつ、本法人における教育研究活動を適切かつ効果的に運営することができる能力を有する者
2. 本法人の自主性、自律性を尊重し、社会に対して本学の存在感を示すことができる者
3. 本法人の将来を見通し、リーダーシップを発揮できる者
4. 管理運営、教育研究、社会貢献及び国際化に関する見識を有する者

### 別紙「大学憲章」

### 【学長選考に係る手続・方法】

国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考会議は、国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考等規程及び国立大学法人豊橋技術科学大学学長選考等規程実施細則に基づき、以下の手続・方法により学長候補者を選考する。

1. 学長候補適任者の推薦（選考等規程第8条）

学長候補適任者の選出にあたっては学長選考会議構成員を除く、学長、副学長及び本学専任の教授（意見聴取有資格者）から、事前に学長候補適任者の推薦について、意見を聴取するものとする。
2. 学長候補適任者の選出（選考等規程第10条）

意見聴取を参考に、3名以内の学長候補適任者を選出するものとする。
3. 所信（選考等規程第11条）

学長選考会議は、学長候補適任者に所信の提出を求めるとともに、所信表明の場を設けるものとする。
4. 意向調査（選考等規程第12条及び第13条）
  - (1) 意向調査の方法は、学長候補適任者名簿に登載された者のうちから、1回の単記無記名投票により行うものとする。
  - (2) 意向調査は、不在者投票を認めるものとする。ただし、代理投票は認めない。
5. 学長候補者の決定（選考等規程第14条）
  - (1) 学長選考会議は、意向調査の結果を参考に、学長候補者を決定するものとする。
  - (2) 学長候補者の決定にあたっては、当該者の意思を確認するものとする。

## 豊橋技術科学大学憲章

豊橋技術科学大学は、昭和 51 年に、実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成という社会的ニーズに応えるため、実践的な技術の開発を主眼とした教育研究を行う大学院に重点を置いた工学系の大学として、高等専門学校卒業生を主たる対象とする新構想のもとに設立されました。

この構想を実現するために技術科学の教育・研究を行い、これまでに多くの技術者・研究者を輩出するとともに、研究、技術開発、産学連携等を通じて社会に貢献してきました。

これらの実績と強み・特色を活かし、更なる発展を期し、豊橋技術科学大学全構成員の道標として、理念と目標を憲章として宣言します。

### 基本理念

豊橋技術科学大学は、技術を支える科学の探究によって新たな技術を開発する学問、技術科学の教育・研究を使命とします。この使命のもと、主に高等専門学校卒業生及び高等学校卒業生等を入学者として受入れ、大学院に重点を置き、実践的、創造的かつ指導的技術者・研究者を育成するとともに、次代を切り拓く技術科学の研究を行います。さらに、社会的多様性を尊重し、地域社会との連携を強化します。これらを通じて、世界に開かれたトップクラスの工科系大学を目指します。

### 【教育の目標】

技術科学の教育を通じて、豊かな人間性、グローバルな感性及び自然と共生する心を併せ持つ先導的な実践的・創造的技術者・研究者を育成します。

### 【研究の目標】

技術科学を究め、産業・社会にイノベーションをもたらす先端的研究を進めます。

### 【国際化の目標】

世界に開かれた大学として、海外教育研究拠点の活用や交流協定校等との連携により、学生・教職員による国際交流を推進するとともに、グローバルキャンパスの実現を図り、技術科学の国際拠点を形成します。

### 【社会貢献、連携の目標】

技術科学の成果を広く活用して、種々の組織との連携のもと、社会が抱える課題の解決に努めるとともに、地域社会の活性化に貢献します。

### 【大学運営の目標】

学長のリーダーシップとガバナンス機能の強化により、大学の資源を最大限に活かすとともに、大学を取り巻く状況や社会的要請の変化に迅速に対応します。

### 【役員、教職員の目標】

相互に信頼・連携・協力し、教育、研究、社会貢献、組織運営等の業務を進めます。

### 【健康・安全管理の目標】

心身の健康を増進するとともに、キャンパスの安全対策と危機管理体制を強化します。

### 【環境配慮の目標】

自然と人とが調和したキャンパスを創るとともに、省エネルギー・省資源化を進めます。

### 【情報公開・情報発信の目標】

積極的に情報公開、情報発信を行い、社会への説明責任を果たします。

### 【法令遵守等の目標】

法令を遵守するとともに、研究倫理、行動規範を遵守します。

平成 27 年 3 月 23 日